横浜市都筑区茅ヶ崎南三丁目1-42
シティセンタービルⅡ
tel: ***045-945-0123***
fax: ***045-945-0122***

www.acecontrols.co.jp

取扱説明書

1-1/2″ 大型調整式ショックアブソーバ

**性能を最大限に発揮させるため、取扱説明書に従って
ご使用をお願いします。**

概要
ショックアブソーバ（図1）は、必ず十分な強度を持った場所に設置して下さい。
衝突物とロッド先端のボタンは出来るだけ垂直に当たる様にし、角度が5度以上で衝突させることは避けて下さい。
必ず頑丈な外部ストッパーを設置して、全ストロークの手前約3mmまでを使用する様にし、ピストンの底突きによる底抜け等の破損を防いで下さい。
放熱効果を最大限に得る為、ショックアブソーバの本体へは塗装をしないで下さい。
必要に応じ、酸やスチーム、溶接スパッタ等の有害物から保護する為ガードを設置して下さい。
調整式ショックアブソーバを2本以上で同時並列使用する場合、出来る限り全て等しい反力となる様に調整して下さい。

アキュムレータ内蔵型の取扱方法
A型並びにNA型の調整式ショックアブソーバには、工場出荷時より油圧作動油＃46が充填されていますので、適切に取り付け調整された後、すぐにご使用することが出来ます。

エアオイルタンク外部設置型の取扱方法
AA型並びにSA型の調整式ショックアブソーバには、工場出荷時より油圧作動油＃46が充填されていますが、使用前に必ずエアオイルタンクと配管接続して下さい。エアオイルタンクは出来る限りショックアブソーバに近い所で、より高い位置に設置します。(図2)
エアオイルタンクとショックアブソーバの配管はよじれや巻きのない様にし、その内径はショックアブソーバの接続ポートと同じかそれ以上の大きさになるようにします。
ショックアブソーバとエアオイルタンクの配管途中には、絶対に遮断弁やチェックバルブの設置はしないください。
エアオイルタンクに入ってくる配管途中に、チェックバルブを設置し、予備のポートを塞ぎます。
注油孔より作動油＃46を注入(入れ過ぎに注意)し、0.35～0.65Mpaの空気圧でご使用下さい。

サイドマウント型の取扱方法(図3)
指定の取付ボルトを用いて、取り付け場所にショックアブソーバを固定します。確実にしっかりとボルトを締めて下さい。
ショックアブソーバのずれを防止する為、後部フランジ固定バーの後に溶接補強されたストップバーを設置して下さい。

図 1

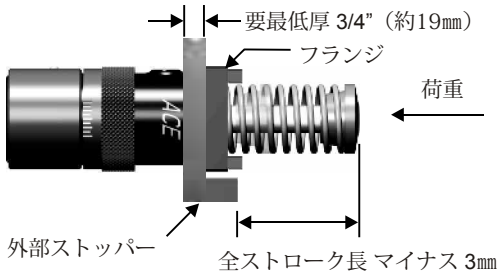


図 2

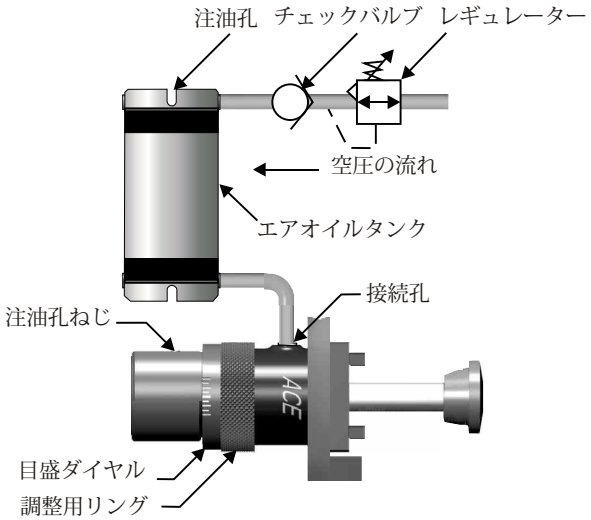


図 3

ボア	取付ボルト	エアオイルタンク
1-1/2	(4) M12	AO-3 or AO-6

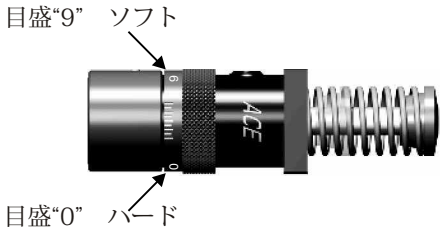
ACE Controls Japan L.L.C.
World leader in deceleration technology

クレビスマウント型の取扱方法(図 4)
本体側のクレビスとロッド側のクレビスを、設置する箇所の相手側に取り付けます。
取り付けたショックアブソーバが最大に押し込まれる手前3㎜までのストロークを使用し、ピストンの底付きがないことを確認して下さい。
ショックアブソーバが許す限りのいかなる速さで引っ張られても抜け落ちないことを確認して下さい。

図 4

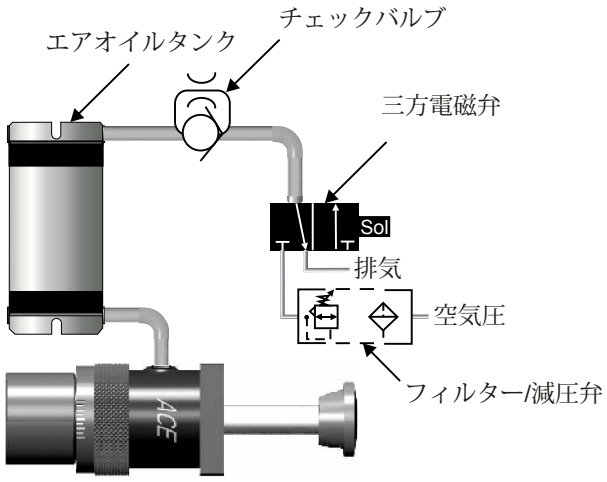
調整方法
ショックアブソーバの効果を最大限に得るためには、適切な調整が重要です。
全ての機種は、工場出荷時に初期値調整されています。装置を繰り返し動かして衝撃を吸収させ、調整リングを廻しながらスムーズに減速させる位置を探し出します。
“0”の方向に廻すとよりハードになります。もし衝突した瞬間の衝撃が強い場合、“0”とは反対の方向に廻して調整します（図5）。もし、調整後最終的に目盛の位置が“0”（1以下）に達してしまう場合は、より大型のショックアブソーバもご検討して下さい。

図 5



AA型ショックアブソーバの排気配管
本機のご使用において、衝撃吸収後にロッドを復帰させずショックアブソーバ内に留めたい場合は、図６の様な配管が必要です。
特に、エアオイルタンクへのオイルの入れ過ぎにはご注意下さい。
エアオイルタンクからのオイルミストを防ぐため、必ずチェックバルブをご使用下さい。

図 6



AA型&SA型ショックアブソーバの循環冷却配管
本機のご使用において、周囲の温度もしくはサイクルの高い使い方によってショックアブソーバの温度が90℃を越してしまう様な場合は、図７の様な配管が必要です。
低クラッキング圧（0.035Mpa）の油圧用インラインチェックバルブ（使用圧力7Mpa）を使用して下さい。
また、配管途中に油圧フィルターを使われる場合、0.035Mpa バイパス弁付きでフィルターエレメントが30～40μのものをお薦めします。

図 7